

事業概要・市場環境

事業	主な用途	販売先	事業の特徴	市場環境と当社の対応	
自動車電池事業 (国内)	自動車 始動用 内燃機関車 (ICE) / アイドリングストップ (ISS) 車 補機用 ハイブリッド車 (HEV) / プラグインハイブリッド車 (PHEV) / 電気自動車 (EV)	新車向け 日系自動車メーカー 補修向け 代理店 (電装店など) / カー用品量販店 / カーディーラー / 石油元売会社など	<ul style="list-style-type: none"> ● 補修向けの方が利益率が高い傾向だが、新車向けでも売価見直しを進めている ● ISS 車用鉛蓄電池は利益率が高い ● 鉛価格の変動が収益に影響する ※新車向け: 3 ~ 6 カ月後に販売価格に反映する仕組みあり、補修向け: スライド制なし ● 補修向けは冬季が必要期 ● 新車向け・補修向けの数量割合はおおよそ 1 : 1 (年度により異なる) 	国内保有台数予測 <p>出典: (株)三菱総合研究所「自動車関連税制に関する収シミュレーション等調査」をもとに当社作成</p>	<p>日本国内の保有台数が販売数量に影響します。長期的には、人口減少に伴い、日本国内の保有台数、新車販売台数は徐々に減少する見込みです。そのため当社では、新車向け・補修向けともに適正販売価格の構築や高付加価値製品の販売強化によってさらに収益力を強化していく考えです。</p>
	オートバイ 始動用	新車向け 日系オートバイメーカー 補修向け 代理店など	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉛価格の変動が収益に影響する ● 地産地消が基本で、為替の利益影響は軽微 ● 産業用鉛蓄電池の業績も含まれる (欧州のバックアップ用が多くを占めている) ● 自動車用・オートバイ用・産業用の売上高の割合はおおよそ 6 : 2 : 2 (年度により異なる) ● 東南アジアは当社シェア・収益性が高い ● 欧州・豪州は補修向けが多くを占める 	グローバルでの自動車の保有台数予測の推移 <p>出典: Wood mackenzie [No. of Road Vehicles (Car Parc)] (2023年10月10日時点)より当社作成</p>	<p>先進国では電動化が進みますが、それ以外の地域においては内燃機関車 (ICE) が残り、ICE の保有台数は大幅には減少しないと想定しています。したがって始動用や補機用の鉛蓄電池の需要は2035年でも大きくは減少しないと想定しています。また、当社の主戦場であるアセアン、豪州における鉛蓄電池需要は安定的に推移すると想定しています。そのため当社では、引き続き需要の見込めるアセアン・豪州・欧州にリソースを集中し、さらなる収益力の拡大を目指します。</p>
自動車電池事業 (海外)	自動車 始動用 ICE / ISS 車 補機用 HEV / PHEV / EV オートバイ 始動用	新車向け 日系自動車メーカーなど 補修向け 代理店など (国により異なる) 新車向け 日系オートバイメーカー 補修向け 代理店など	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉛蓄電池が中心 ● 設計～製造～施工～保守・メンテナンスをワンストップで行うため、利益率が高い ● 年度末に利益率の高い官公庁向けの案件が集中する ● データセンター向けは電池のみの納入のため、新設時の利益率は高くない 	国内データセンターの建設投資予測 <p>出典: IDC Japan [2025年4月7日 国内データセンター建設投資予測を発表]</p>	<p>社会インフラを支えるバックアップ用電池・電源装置の需要は今後も底堅く推移する見込みで、日本全国の販売代理店網を活用し、ニーズに応じた製品・サービスを提供します。加えてデータセンターの投資の増加に伴う需要増加にも、高品質な鉛蓄電池を提供して対応します。また、国内では再生可能エネルギー関連の補助金制度が多数あり、再生可能エネルギーの需要はさらに高まる想定ですが、天候や時間帯によって発電量が大きく変動することから、電力系統に悪影響を及ぼす可能性があります。その出力変動を緩和する役割を果たすキーデバイスとして蓄電池の需要が高まっており、当社ではESS向けの生産能力を拡大し、需要に対応しています。</p>
産業電池電源事業	非常時のバックアップ 非常用分野 電力貯蔵システム (ESS) 常用分野 フォークリフト 駆動用	非常時のバックアップ 鉄道 / 電力 / 官公庁 / 通信キャリア / 工場 / ビル / データセンターなど (代理店や電気工事会社、電機・通信機器メーカーなどを經由する場合もある) 電力貯蔵システム (ESS) 送配電事業者 / EPC * 事業者 / 工場 / 事業所など フォークリフト フォークリフトメーカー / メーカー代理店など	<ul style="list-style-type: none"> ● リチウムイオン電池が中心 ● 事業拡大が期待できる 	国内の電源構成の推移予想 <p>出典: 資源エネルギー庁 [第7次エネルギー基本計画の概要] をもとに当社作成</p>	<p>世界年間販売9,000万台を超える自動車への環境規制が、世界各国で強化されており、HEVやBEVなどの電動車の割合が大幅に増加する見込みです。日本でも、2035年までに国内の新車販売をすべて電動車にするという目標を掲げています。当社では、2030年代半ばまではHEVが自動車市場の主流と見込んでおり、生産能力を拡大して需要に対応しています。2030年以降は徐々にEV・BEVが増加すると予測しており、当社では2027年度からのBEV用の量産開始に向け、研究開発と工場建設を進めています。</p>
車載用リチウムイオン電池事業	自動車 駆動用 HEV / PHEV / バッテリー EV (BEV) 始動用・補機用 (12Vリチウム) HEV / PHEV / BEV / ICE	新車向け 日系自動車メーカーなど	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品寿命が長いこと、原則新車向けのみ ● 研究開発費用がセグメントに含まれる ● ESS 用リチウムイオン電池の製造も含まれる ● 事業拡大が期待できる ● HEV 用: 高入出力性能、BEV・PHEV 用: 高エネルギー密度、高出力性能が求められる 	グローバルパワートレイン予想 <p>出典: 各証券会社資料をもとに当社作成</p>	<p>当社は特殊電池事業において、宇宙・人工衛星用のリチウムイオン電池で高いシェアを持っています。世界の宇宙産業市場予測では、2017年以降の20年間で約3倍の市場規模が見込まれています。今後も最高水準の性能・品質を持つ製品を提供し、宇宙産業の発展に貢献します。また潜水艦向けを含めた防衛用途の分野では、防衛費の増加に伴う増産ニーズに確実に対応していきます。</p>
特殊電池およびその他事業	潜水艦 有人潜水調査船 航空機 ロケット 人工衛星 その他特殊用途	新車向け 日本政府 / 電機機器メーカー / 航空機メーカー / エアライン / 特殊法人など	<ul style="list-style-type: none"> ● 潜水艦用リチウムイオン電池は進行基準で計上しており安定した売上・利益を獲得できる ● 全社費用がセグメントに含まれる 	世界の宇宙産業市場規模と予測 <p>出典: Morgan Stanley [Space: Investing in the Final Frontier] をもとに当社作成</p>	防衛予算の状況 <p>出典: 防衛省・自衛隊 [令和6年度防衛白書] [防衛力抜本的強化の進捗と予算・令和7年度予算案の概要] より当社作成</p>
バッテリーの用途	始動用 エンジンの始動に使用 補機用 電動車のシステムの起動や電装品のバックアップに使用 駆動用 モーターの駆動に使用	非常用分野 データセンターや通信基地局向けなどにおいて、非常時のバックアップに使用 常用分野 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントなどにおいて、常時の充放電に使用	<p>※ 設計 (Engineering)、調達 (Procurement)、建設 (Construction) を一括したプロジェクトとして工事を請負う契約方式。</p>		